

糸が
無いっ
っ!

成人向
同人誌



男A 「……そう…
アリアドネの糸を持つてくるの
忘れて帰れなくなった、か。
それは困ったねえ。」

迷宮に挑む者なら誰も経験するであろう失敗。
脱出手段を失い、途方にくれるパーティに
声をかけたのは二人組みの男だった。

男B 「俺達はたくさん持つてるから
譲ってあげてもいいんだけど……
タダで、ってワケには行かないなあ」

メディック 『えっと…わ、私達 お金はおんまり…』

パーティの一員のメディックが
不安そうに手持ちの金貨を数え始めるのを見て
男達は首を振る。

男B 「ああ大丈夫、お金はいらない。
その代わりに…うーん、そうだな…」

品定めをするようにパーティのメンバーを
眺める二人組み…その目に留まったのは
先ほどのメディックと、カースメーカーの少女だった。

男B 「キミと、キミ。
二人に頼みたいことがあるんだ。
引き受けてくれるなら
糸は譲ってあげようと思うんだが…
どうだい？」

“糸が手に入るなら…”
メディックとカースメーカーは取引に応じることにした



男A 「頼みを聞いてくれるのか、助かるよ。 ……でもここじゃ頼めない事なんだ。
悪いが二人とも俺達についてきてくれないか」

……仲間をその場に残し、男達についていくメディックとカースメーカー。
しかし、見慣れない道を進んでいく彼らに一抹の不安を感じる少女達…

カースメーカー 『あのっ…私達、何をすれば……』

男A 「ふふ、すぐにわかるさ、すぐに……ほら、ついたぞ」

人目につかない隠し通路を抜け、一行は目的の小部屋にたどり着いた。

男B 「鈴、鈴、っと…よし、
これで邪魔されることも無い…へへへ…」

獣避けの鈴の音が魔物の気配が遠ざけるのを確認した後……男達は本性を現した。

男B 「さ…始めようか、えっちなコト。」

男A 「おっと、嫌とは言わせないぜ。
仲間と一緒に生きて迷宮から帰りたいならな…」

メディ「ぬ…脱ぎ、ました…」

男A 「…よしよし良い子だ
さ、こっちに來い」

“服を脱げ”

命令されるまま、メディックは
下着一枚を残し、男の前に歩み寄る。
パーティの命運を握られた今
男に逆らう術は彼女にはないのだ。

必死に恥辱に耐える少女
その努力を嘲笑うかのように
男は下着の中に指を滑り込ませ
幼いスリットを弄び始める…



男達の魔手は
もう一人の少女にも伸びていた。

男B 「ねえ…君達、今
なんさいなのかなあ？」

メディックと同様に裸同然にされた
カースメーカー…その身体を
まさぐりながら、男は尋ねる。

男B 「！ へえ、二人とも
まだ“1×才”なんだ…
へ…へへ…」

自分達の前にいるのは
一回り以上年下の幼い少女達。
その事実にも、男達は躊躇どころか、
更に欲望を加速させていく…





男B 「も、もう我慢できない！」

突然カースメーカーを押し倒す男。
逃げられないように
小さな身体をしっかり捕まえ、
そして……

カスメ『！ や、やあっ！？』

秘唇をなぞるヌルヌルした感触…
男がカースメーカーの股に顔を埋め
舌を這わせ始めたのだ。

男B 「はあ、はあ、おいしいよ、
カスメちゃんのお〇んこ
はあ、はあ、はあ…
じゅるっ！じゅるるっ！！」

カースメーカーが舌の感触に戦慄する一方、
メディックは執拗なアナル責めに晒されていた。

男A 「そら…だいぶ入るようになったぞお…」

メディ『あううっ！や、やめっ…』

最初にかたくなに異物を拒否し続けた菊門も
徐々にほぐされ、今では男の太い指に
第二関節まで侵入を許してしまっている。

男A 「いいねえー、このまま続けたら
もっともっと太い物も
入るようになるかもなあ…ククツ」

メディ『やあ…やだよお、ギンなの…ううっ』



男A 「……っと、このままずっとイタズラを
し続けるのも楽しいだろう、が…」

男B 「ああ…あまり待たせると仲間達も
心配だろ。…そろそろ本番と行くか。」

カスメ『きゃ…っ!』
メディ『な、何を…!?!』

男A 「へへ…とおっても楽しいことさ。
さ…いくぞお…っ」



『あ、あ……』
『ああああーっ!』

カスメ『い、痛いっ、痛いっーっ!!』

幼い二人には大きすぎる肉棒を無理矢理捻じ込まれ
処女膜が無惨に引き裂かれる。
破瓜の苦痛に悲鳴を上げる哀れな少女達…
それを意に介すること無く、男達は抽送を始めた。

メディ『う あ あ…っ！動か…ない…で…っ!!』

男B 「くっ、狭すぎて…動かすのも
一苦労だよ…」



カスメ『うぐっ……う……くる、しい…抜いてよお』

メディ『やめて……もうやめ……っ、うあああ』

男A 「へへ…辛そうだな…
そろそろ終わりにしてやるか…」

…少女達は幼さゆえに
自分達のされている行為の意味を知らない。
行為の“終わり”に待っているのが何か、も。



男B 「ぐ…出るっ……出るっ！」

男A 「しっかり受け止めろよ…うおおっ！」

臨界を迎えるその瞬間、肉棒が一気に
少女達の最奥まで突き入れられた。

『あ、あ、うおおおーっ！！』

射精という名の“終わり”…
男達は熱い白濁を一滴残らず
少女の膣内に注ぎ込んでいった…

男A 「はあ、はあ…ふう、
最高だったぜ、依頼、達成だ」

男B 「約束どおり糸は譲ってあげよう
二人のがんばりのおかげで
君たちの仲間も皆助かる
めでたしめでたしだね…」

「…でもこの二人
このまま帰らすのは
惜しいなあ…」

「フフ…そうだな…
…さてどうするか…」

依頼を果たしに行ったメディックとカースメーカーを待つ
パーティのメンバー達。
彼らの前に二人組みの男が現れる。


男 A 「君たちの仲間は無事依頼を達成したよ…ほら
報酬ののアリアドネの糸…さ、受けとってくれ。」

『え…二人はどこに？』

男 B 「ああ、心配しなくていい
あの子達は先に帰ってもらったんだ」


男 B 「……行ったか。
馬鹿なやつらだ。騙されたとも知らずに…」

男 A 「フフ…お前らの大事なお仲間さんは
俺達が大切に飼ってやるぜ。
大切に…な」



「そーら、たのしい
おさんぽのじかんだよお」

「へへ…その格好
よく似合ってるぜ…」



おれから数日後
私達は男達のギルドに
強制的に登録させられました。
……彼らの“ペット”として…

今日もまた、彼らの“調教”が
始まります……



■糸が無いっ！■

- 発行 : 2008/08/17
- 著者 : 村田電磁
- 連絡先 : denjiken@mail.goo.ne.jp
- HP : <http://denji.fc2.com>
- 印刷 : あかつき印刷 様

2008 電磁誘導
FOR ADULT ONLY

